

【参考】

## 「妊娠とくすり」について基本的なことを理解しましょう

### 1. 妊娠の成立と経過<sup>4)</sup>

妊娠は、排卵された卵子と精子が受精した後、受精卵が子宮内膜に着床することによって成立します。

#### 〈排卵と妊娠〉

排卵は、月経周期が 28 日周期の人の場合、月経が始まった日を第 1 日として 14 日目前後に起こります。排卵の前 5 日間と排卵日のあわせて 6 日間（28 日周期なら月経から 9～14 日目ごろ）が最も妊娠しやすい時期です。

月経周期は個人差があるので、本人のサイクルを知っておくと役に立ちます。

#### 〈受精～着床まで〉

排卵された卵子は卵管采と呼ばれる卵管の先端から卵管膨大部に取り込まれます。そこで卵子は精子と出会い（受精）、受精卵となった後、細胞分裂を繰り返しながら卵管をとおって 1 週間ほどで子宮へ移動し、子宮内膜に着床します。

#### 〈器官の形成〉

受精から 2 週間たったころ（月経予定日を過ぎているのに月経が来ないころ）になると、赤ちゃんの器官（脳や心臓、手足など）の形成が始まります。

図 3 を見ると、妊娠 4 週ごろからおよそ 4 週間、集中的に器官が形成されていくのが分かります。このころは、最もくすりの影響を受けやすい時期です。

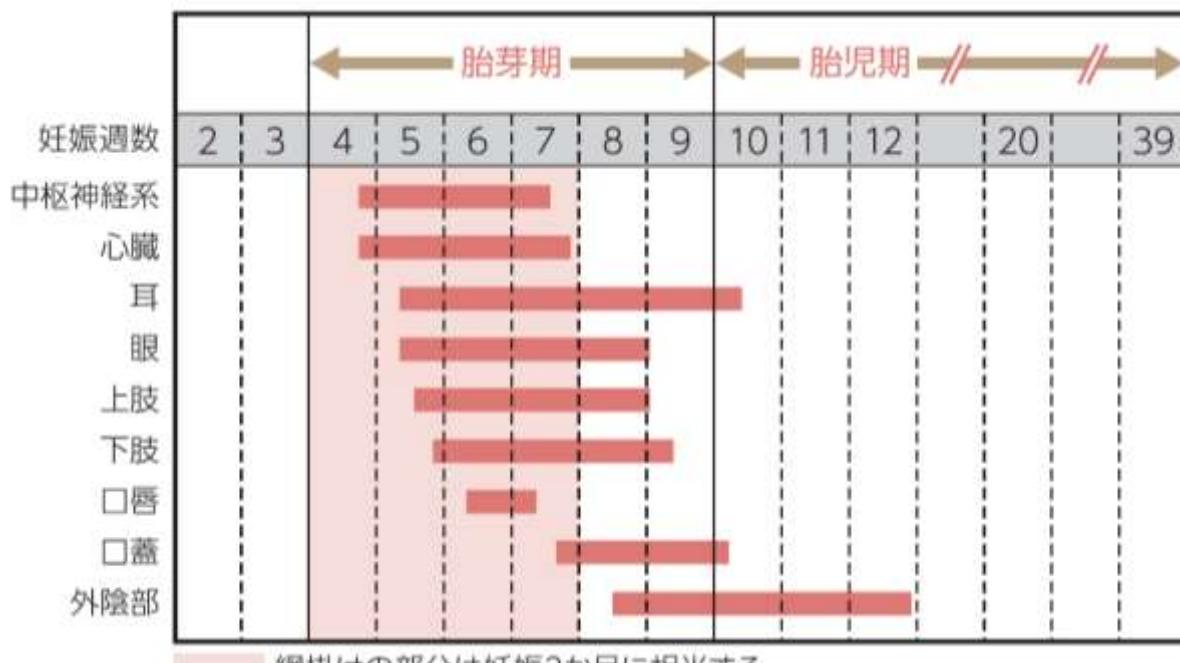


図 3. 赤ちゃんの器官形成期

## 2. 妊娠時期の数え方<sup>4)</sup>

妊娠時期は、「〇週〇日」や「〇か月」として示されます。

- 妊娠週数
- 最後の月経が始まった日を0週0日として数えます。
  - 0週6日まで数えて、その次は1週0日となります。
  - 分娩予定日は、妊娠40週0日です。

- 妊娠月数
- 週0日から3週6日までの4週間を妊娠1か月として数えます。

ただし、受精時期がずれると妊娠の週数や月数は正確ではなくなります。超音波検査による赤ちゃんの発育状況から予定日が修正されることもあります。

## 3. 妊娠の時期と薬の影響<sup>4)</sup>

妊娠中のくすりは、種類や量、併用薬のほか、妊娠時期のいつごろにのんだかによって赤ちゃんへの影響が異なります。

妊娠4週からおよそ3か月間は、赤ちゃんの重要な器官が作られ、くすりの影響を受けやすい時期です。

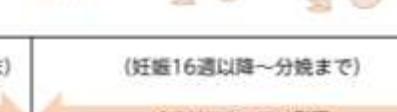
最終月経 排卵・受精 妊娠診断可能 分娩予定日																					
妊娠月数	1か月			2か月				3か月				4か月				5か月			6~10か月		
妊娠週数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20~39
おなかの赤ちゃんの変化																					
くすりの影響	(妊娠前~3週末) 影響ほとんどなし			(妊娠4週~7週末) 				(妊娠8週~15週末) 				(妊娠16週以降~分娩まで) 									
説明	くすりの影響はほとんどありません この時期にくすりをのんでも、妊娠が無事に経過していれば影響はなかったと考えて大丈夫です。			赤ちゃんの脳や神経、心臓、腎臓、手足などの重要な器官が形成される大事な時期です。もっともくすりの影響を受けやすい時期なので、自分の判断でくすりをのまないで、早めに医師や薬剤師に相談してください。				くすりは慎重に使いましょう 性の分化や口蓋が完成する時期です。赤ちゃんの重要な器官の形成は終わっていますが、妊娠4カ月くらいまでの難は、くすりの影響を受けやすい時期です。				安易にくすりをのむのは避けましょう 器官の形成は終わり、奇形の心配はありませんが、くすりが赤ちゃんの体の機能に影響することがあります。 特に妊娠後半期は、痛み止めなど一部のくすりで赤ちゃんに大きな影響が出ることがあります。(p.14参照)									

図4. 妊娠の時期とくすりの影響